



魚の年令はどうやって調べるの、どれくらい生きるの

うろこの年輪で調べる

木の切り口には、毎年、幹が太くなっていった様子が、しま模様になって残っている、年輪が見られます。魚のうろこにも、同じように、年輪のようなものが残っています。うろこの中心から、しまの数を数えれば、その魚の年令がわかるというわけです。でも、うろこが大きくなるほど、しまが数えにくくなり、6～7年までしかこの方法は使えません。また、うろこに年輪が出るのは、魚の種類によります。

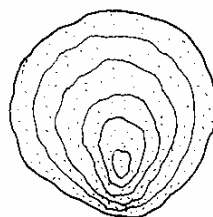
背骨の切り口や、耳の中にある耳石にも、うろこと同じような年輪が見られます。ただし、うろこの年輪ほど、はっきりしません。

標本をたくさん集めて、その体の長さを測り、体長から年令をすい測する方法もあります。生まれたばかりの魚に印をつけて海に放し、印のついた魚がとれたとき知らせてもらって、その記録を集めて調べる方法もあります。

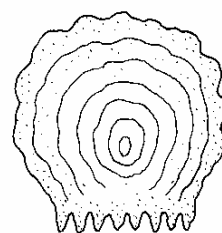
およその魚のじゅ命

長生きの記録では、水族館のヨーロッパウナギが88才という例があります。およそのじゅ命がわかっているものとしては、アユ、サヨリ、シラウオなどが1年、ハゼ、ワカサギなどが2～3年、メダカが2年、マイワシが10年、ニシン、イワナなどが18年です。長生きグループとしては、キンギョが30年、マダイが20年、コイやウナギやナマズなどは、およそ50年くらいといわれています。

(監修・安部 義孝)



フナなどのうろこ



スズキなどのうろこ
(とげがある)

